

2022年度 教育課程編成・実施の方針に照らした教育の取組の適切性に関する検証

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学びの姿勢ふり返り(学科／研究科専攻の教育課程編成・実施の方針)」のデータを活用した検証です。各学科／研究科専攻の教育課程編成・実施の方針については、本学ホームページの「教育方針」(下記のURL)をご覧ください。

<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

学科・研究科専攻名 福祉心理学科

調査項目は以下の11項目である。

- ①基本的スキルの育成:リエゾンゼミⅠを通して、レポートの作成やプレゼンテーションの仕方、ICTの使い方(図表作成を含む)を学んでいる。
- ②人間関係づくり、心身の健康:リエゾンゼミⅠを通して、心理学を踏まえた人間関係づくりや心身の健康の向上に取り組んでいる。
- ③総合基礎教育:総合基礎教育を通して、総合的な見方、心理学の基礎、隣接分野の基礎、社会における課題を幅広く集中的に学んでいる。
- ④知識と技能の学習:心理学概論、福祉心理学、心理学実験、心理学研究法、心理検査法実習等の科目を通じて、心理学の代表的な知識と基本的な技能を学んでいる。
- ⑤実践の理解:心理実践活動論や心理学実践研究実習等を通じて、実践について理解を深めている。
- ⑥履修コース:自分の学びたいことに合った履修コースを選んで、それぞれのコースの内容を深く学んでいる。
- ⑦隣接領域:心理学だけではなく、福祉、教育、保健医療、産業・労働、司法・法務等についても幅広く学んでいる。
- ⑧心理学に限定されない資格:心理学に直接関係するものではないが他学科や学内での学びで得ることができる国家資格または認定資格、検定、免許を得られるように学んでいる。
- ⑨心理学関係の資格:心理学関係の国家資格または認定資格・検定を得られるように学んでいる。
- ⑩知識・技能と職業能力の結びつけ:心理学の知識と技能を職業能力につなげるために、実学臨床教育、地域共創実学教育、ボランティア活動、インターンシップ、各種学外実習、課外活動等の社会活動経験に取り組んでいる。
- ⑪心理学の学びを活かした仕事:リエゾンゼミⅠ～Ⅳや心理実践に関する科目を通じて心理学と社会とのつながりや職業倫理について考え、授業内外の学科のガイダンスやセミナーを通じて心理学の学びを活かした仕事について学んでいる。

各項目について1(全くそう思わない)～6(非常にそう思う)の選択肢とした。1年生から4年生まで、各学年末の回答の平均値が以下の図である。なお、回答者数は1年生57名、2年生8名、3年生8名、4年生38名、学科全体で190名であった。項目によっては、2、3年次末で4(ややそう思う)を下回るものがあるものの、4年次末には総じて4(ややそう思う)から5(そう思う)の範囲内にあり、学年末においてどの学年も総じて自身の学びの姿勢を良好に捉えているといえるだろう。また、ほぼすべての項目で4年生が最も高い平均値を示していた。これらの事柄は過年度と同様の傾向であった。そして1・2年生よりも3・4年生が高い平均値を示す傾向が認められた。知識・技能の獲得(「基本的スキルの育成」「知識と技能の学修」と実践的な活用(「実践の理解」「隣接領域」「知識・技能と職業能力の結びつけ」)においてこうした学年差が明確に示されたことは、CPに基づいた取組が適切であったことを示すと思われる。



